

第 62 回関東都県算数・数学教育 研究静岡（浜松）大会参加報告

沼南高等学校 川邊 浩一

8月17日（金）に、静岡県浜松市の静岡文化芸術大学（高等学校部会，小学校部会），浜松開誠館高等学校・中学校（中学校部会）を会場として行われた，第 62 回関東都県算数・数学教育研究静岡（浜松）大会に参加してきました。今大会は，「算数的活動・数学的活動を通して，考え合う楽しさを味わう授業をめざして」を大会主題として，開催されました。

浜松市は，本年 4 月に政令指定都市に移行したこともあり，教育に関しても活力を感じました。全体会・記念講演及び分科会の様子について，簡単に報告いたします。

開会行事

大会実行委員長挨拶

静岡大学教育学部 國宗 進

本大会の研究主題について、『算数的活動・数学的活動を通して』には「数学的な見方や考え方の育成，主体的・探究的な学習，学習の過程の重視」が，『考え合う』には「思考力の育成，子ども同士・子どもと教師の相互交渉，集団としての高まり」が，『楽しさ』には「関心・意欲，知的好奇心の喚起，追求のよろこび」が，『味わう』には「振り返る，鑑賞，多様な考え方をいかにまとめるか，活用」が込められています。切り込む視点はいろいろあるが，いずれにせよ，日々の「授業」の改善なくして革新はありません。

記念講演

「これからの算数・数学教育と

実践・研究の方向」

日本数学教育学会会長 中原 忠男

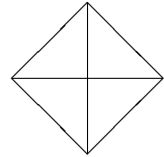
現在，環太平洋大学教授もなさっています。IEA 調査や PISA 調査等の結果から，数学に対する意識を分析し，今後の予想について講演しました。その中でも，日数教研究部調査による先生方の悩みについて，①子ども

の能力差が大きい，②授業時間の不足，③教材研究時間の不足，④子どもが考えようとしない点あげられた。一方，高校一年生の意識として，大事な教科は「国語，数学，英語」，一番出来るようになりたかった教科は「数学」と答えている。このことを我々は重く受けとめ，答えていく必要があるとのことです。

また，21 世紀に活躍する人材には創造性が求められており，具体的には①多面的にものを見る力，②論理的に考える力を育成し，その基礎を培うことが重視されます。

①の例

右の図が何に見えますか？



分科会

高等学校の分科会は 9 つに分かれて実施されました。教材に関する研究，コンピュータを用いた研究，大学入試，教育課程，学習指導法，自由研究などのテーマに大きく分類され，各教室では，3～4 の研究発表が行われました。なお，千葉県からは次の発表がなされました。

- 大根を利用して立体の体積を考える
(市立銚子西高等学校 大木喜信)
- 平成 19 年度「計算力テスト」の実施結果について
(千高教研数学部会研究委員会)

分科会の教室は，15 人程度のゼミ室を利用していたのでかなり狭い印象がありました。



分科会の様子

次回の関東都県算数・数学教育研究大会は，来夏（8/19）に群馬県で実施されます。大会主題は，「子どもたちの学びあいを大切にする算数・数学教育を目指して」です。